

## 実践報告

# 札幌市立東月寒中学校

### (1) 研究内容

研究課題：「男女平等教育に関する研究」

- 「札幌市男女共同参画推進条例」の理念に基づき、男女相互の理解と思いやりによって、ともに力を合わせて生きていくことができる実践的態度や能力を育成する。

### (2) 実践の内容

【実践①】技術・家庭科 家庭分野「A 家庭・家族と子どもの成長」  
幼児との触れ合い学習について

#### ○ ねらい

幼児と触れ合う活動を通し、幼児への関心を深めるとともに、幼児との関わり方を工夫する。

幼児と触れ合う活動を通し、命を大切に作る心を育てる。

#### ○ 学習内容

近隣の幼稚園の協力をいただき、1時間程度の触れ合い学習を行っている。事前に幼児の心身の発達について学び、当日は冬の屋外、雪の中での触れ合い活動を行う。触れ合い学習の中では、多くの生徒が幼児の目線に立って話しかけたり関わったりした。生徒の振り返りでは次のような意見が出た。

- ・ 泣いている子と接して、はじめどうしようと思ったけれど、いろいろ聞きながら対応を考えたところ、その子が笑顔になったときは本当に嬉しかった。
- ・ 男の子二人がたたき合っていたので、二人の間に入って違う遊びを提案したら、その後は仲良く遊んでいたのですごくほっとした。
- ・ 「自分がこうしたい」ではなく「相手がこうしたい」を考えながら動けた。
- ・ ふれあい学習を通して、自分自身の成長にもなり、「優しさ」を手にできたと感じた。

【実践②】道徳 1 学年「異性理解・人格尊重」

#### ○ ねらい

「男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する」心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。

#### ○ 学習内容

道徳の授業で、読み物教材を用いて正しい異性理解と尊重についての学習を行った。生徒は始め「異性の考えていることはよく分からない」「異性は自分とは考え方が違う」と言っていたが、教材に登場する男女の立場を考えながら話し合いを進めていくうちに、「自分の考えを押し付けても相手にとって迷惑になることもあるから、気を付けながら付き合うことが必要」「お互いの気持ちをぶつけ合うことで、お互いが分かり合えた」という意見が出てきた。まとめでは、「異性では考え方が全く違うと思っていたけど、クワ

スで話し合ったら男子と女子は似たような考えがいくつもあって、全く違うわけじゃないんだと思った。」

「異性に限らず人と接するときは相手を尊重しあうことが大切だと感じた。」という意見が出ていた。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・ 技術・家庭科の実践について、幼児との触れ合い学習を通して生徒は、幼児の心身の発達を学んだだけでなく、人との接し方や相手を思いやる気持ちも育むことができた。
- ・ 道徳の授業の実践では、異性の考え方を理解すること、互いに一人の人間として尊重し合うことが大事だと考えることができた。
- ・ 今年度は外部から講師をお招きして、「命の大切さを学ぶ教室」「認知症サポーター教室」も実践した。命を大切にすること、中学生とは違う立場の方に対して自分ができることを考えることができた。

#### ② 課題

- ・ 教科の授業の中で、男女平等教育の視点をどう取り入れるか、今後も研究が必要であると感じた。技術・家庭科でいえば、家庭分野「A 家庭・家族と子どもの成長」の「私たちと家族・家庭と地域」の学習の中に「家庭の仕事に費やす時間の比較」や、「男女共同参画社会を目指して」という内容もあり、時間をかけて話し合い活動や交流を行うことができる。また、これに限らず、自立した一人の人間として必要な知識や技能、実践的な態度や工夫・創造する能力を身に付けさせる題材の工夫をしていきたい。
- ・ 道徳の授業では、「B 主として人との関わりに関すること」の「友情・信頼」に関する内容で、異性理解、男女の協力についても触れることになる。発達の段階に応じて、3年間を見通した内容を取り上げることが必要と考える。また、社会参画、勤労の内容とも関連付けていく方法も考えられる。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 生徒は学校では同年代、また家族では同じ人との関わりがほとんどなので、地域の協力も得ながら違う年代の人との関わりをもったり、様々な方からの話を聞いたりすることは「人権」を考える上で有意義である。
- ・ 技術・家庭科の授業では、「男だから」「女なのに」という発言がいまだに聞かれる。前述したとおり、授業を通して一人の自立した人間として生活できるような力を付けさせていきたい。
- ・ 生徒に関わる周囲の大人が、男女平等も含めた人権意識をもって接していくことが大切なことである。